

第7次山形県教育振興計画 (骨子案)

<計画期間；令和7年度から概ね10年間(方針以下は5年間)>

令和6年3月14日 教育局

本県教育を取り巻く社会経済状況(主なもの)

- 人口減少の加速化 ○気候変動と自然災害
- グローバル化の進展と国際環境の複雑化
- VUCAの時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)
- 共生社会・社会的包摂 ○Society5.0の到来

第6次山形県教育振興計画期間の現状(主なもの)

- 探究型学習の拡大・浸透 ○併設型中高一貫教育校の設立
- 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合が高い
- 運動時間数の減少 ○不登校児童生徒の増加
- 教員志願倍率の低下 ○授業でのICT利用頻度が低い

今後を見据えた課題(主なもの)

- 予測困難な時代を生き抜くための変化に対応できる力の育成
- 多様な個人を尊重し、包摂社会に寄与する態度・姿勢の育成
- DXや少子化、地域との連携等、様々な変化に対応した学びの環境整備

【目標】 ウェルビーイング※を目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

※ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず将来にわたる持続的な幸福を含むとともに、個人だけでなく、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

<目指す社会>

- ◎異なる立場や考え、価値観を持った人々が豊かに生き活きと暮らす中で、
 - 子どもは、学校の中だけでなく、社会の中で交流し、ワクワク感(意欲、興味、関心)を持って自ら選択し学び合っている
 - 大人・家庭は、互いを尊重する姿を見せ、子どもの試行錯誤を見守り、挑戦できる環境をつくっている
 - 地域等は、子ども一人ひとりの違いや個性を評価するとともに、子どもたちへ多様な学びの場や安全・安心な環境を提供している

【県民の皆様へ(メッセージ)】

○本計画は、教育行政の取組みを中心にまとめたものだが、県民一人ひとりが自分事としてとらえ、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら一緒に取り組むことが大切。

●子どもたちへ

- ・地域や社会で色々な人と交流する
- ・学ぶ楽しさや意味を知る
- ・失敗を恐れず、様々なことをやってみる
- ・自分を大切にするとともに、他者を尊重する など

●保護者、家庭の皆様へ

- ・家庭は子どもの学びや社会性を育む原点となる
- ・子どもが自分で遊び育つ力を信じ、遠くからしっかり見守り、困った時は手を差し伸べる
- ・家庭は子どもが安らげる場所となる など

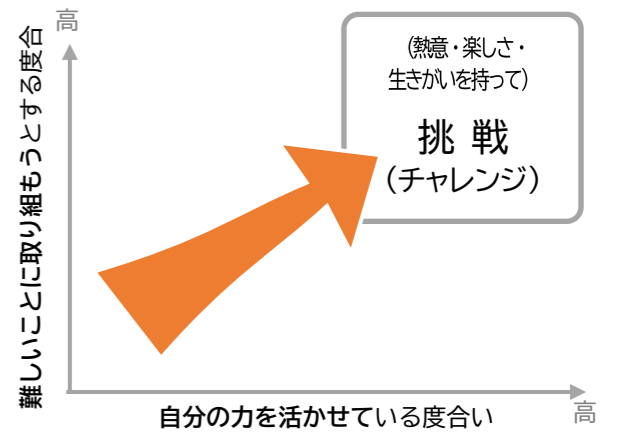
●地域、企業・NPOの皆様へ

- ・画一的な学びから個別最適な学びへの変化を認識する
- ・学びの場は学校以外に広がり、地域や企業、社会全体が主体的に参画し提案する
- ・子どもの健康や成長を見守る など

<ウェルビーイングを目指すためには>

・個人の幸せだけでなく、社会が幸せを感じられるよう、県民皆が自分の力を活かしながら、前向きに取り組んでいることが重要

→「挑戦」していることが重要



方針Ⅰ 一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジする学びや態度を育成する

アクション1 自ら考え、主体的に行動する力を育む

()内は想定取組例

- 様々な体験を通し自分の興味関心を見つけ、行動する経験を積み重ねることで、主体的に学び続ける
 - ① 確かな学力の育成 (・探究学習の拡大 ・少人数学級編成の展開 ・異学年共同学習の展開 等)
 - ② 職業実践力の育成 (・キャリア教育の充実 等)

アクション2 新たな価値を創造する力を育む

- 時代の変化を敏感に捉え、自由な発想で果敢に挑戦し、失敗しても諦めずに創意工夫する
 - ③ グローバル社会における人材育成 (・外国語教育の充実 ・海外体験学習の実施 ・ICTを活用した海外との交流 等)
 - ④ イノベーションを担う人材育成 (・STEAM教育の充実 ・アントレプレナーシップ教育の展開 等)

アクション3 互いを尊重し前向きに生きる心と体を育む

- 豊かな心健やかな体を育み、互いを尊重し、社会の一員として自分の意志を持ち前向きに行動する
 - ⑤ 豊かな心の育成 (・体験学習の充実 ・感性や郷土愛の育成 ・幼児教育の推進 等)
 - ⑥ 健やかな体の育成 (・食育の推進 ・体力、運動能力の向上 等)
 - ⑦ 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成 (・主権者教育の推進 等)

方針Ⅲ 社会の変化に対応した学びの環境を整える

アクション6 教育DXを実現する

- ICTの活用が日常化し、学ぶ場所を自由に選び、教育データを活用して、リアルな体験と組み合わせた一人ひとりにあった充実した学びを実現する
 - ⑬ 教育DXの推進・デジタル人材の育成 (・遠隔授業の拡大 ・教育データの分析・活用・児童生徒のICT活用力の育成 等)
 - ⑭ ICT環境の整備 (・ICT設備の充実 等)

アクション7 活力あふれる学校を実現する

- 家庭や地域と役割分担しながら、外部人材の活用などにより、先生が余裕と余白を持つとともに、子どもが前向きに挑戦できる環境をつくる
 - ⑮ 指導体制の強化 (・教職員の働き方改革 ・教員確保 ・研修の充実 等)
 - ⑯ 教育環境の整備 (・高校再編 ・学校施設の整備 等)
 - ⑰ 児童生徒等の安全確保 (・学校安全の推進 等)

アクション8 家庭や地域と一体となって子どもの学びを支える

- 子どもも大人も、学校の中でも外でも、自分の学びたいように学べる場や学べる選択肢を社会全体で協働し支えていく
 - ⑱ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上 (・コミュニティスクールの推進 ・家庭教育の充実 ・県立高校と地域が協働した取組みの推進 等)
 - ⑲ NPO・企業・地域団体等との連携・協働

取組事例
県内の特徴的な



【探究ヘルプデスク】
・大学生による、高校生
の探究活動のサポ
ートの取組み
(東北芸術工科大学)



【朝日中スキマクラス2.5組】
・民間企業による、公立中学校
内のオフィス設置と生徒と
の交流、先生の授業支援
(地域振興サポート会社
まよひが企画)